

「戦争体験文集&平和募金企画参加者感想文集」

戦争体験者の証言を後世に語り継いでいくために、組合員やその家族などから寄せられた戦争体験文・ひとことメッセージ・東都生協平和募金企画報告や平和活動報告をまとめた文集を毎年発行しています。

部数に限りがありますが、希望者にお配りします。4月発行予定の広報紙・ホームページをご覧ください。



子ども平和ライター



えをみてとても
しょうげきをうけました
こういうみらいに
したくないと
思いました

男の子の
せなかが火で
やけているのを
思いました

※感想文は「戦争体験文集&平和募金企画参加者感想文集」に掲載されます。

夏休みの自由研究として「平和について小学生に考えてもらおう」と平和のつどい実行委員会が「子ども平和ライター」を募集したところ、2人の小学生が参加してくれました。

平和のために
できることって
何?

平和について
もっとみんなで
話そうよ

「平和が当たり前」のように日々生活している私たち。一方で、イスラエルやロシアなどの核保有国が戦闘を拡大し、世界規模の戦争へと緊迫度は増えています。東都生協は「平和なくして生協なし」との考えの下に、戦争も核兵器もない世界を目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。今回の特集では2024年度東都生協で開催した平和企画で参加者が感じたり、語ったりしたことを紹介します。平和のためにあなたが思うことを話してみませんか。

世界の子どもたちと出会い、「子どもの権利」を感じる、知る、考える

★「ユニセフハウス」@品川 訪問 (8月14日 第7地域委員会)

ユニセフハウスは、自然災害や紛争などで厳しい環境の中に暮らす子どもたちの現状を考える体験型学習展示施設です。

おとなと子どものグループに分かれ、ガイドツアーに出発。学校にも行けず朝から重い水がめを抱えて遠くまで水をくみに行く子や、少しのご飯しか食べられずに痩せ細った子どもたちは、病気にかかりやすく、満足な治療を受けることも難しい状況です。あどけない表情の少年兵が銃を持つ姿にも衝撃を受けました。

その他、ユニセフハウスの歴史や子どもの権利条約などのパネル展示もあり、平和な日本では想像もできない「こんな日常」が世界に存在することを家族で考えてみる機会になりました。



スタッフの説明を真剣に聞き入る子どもたち

もっとご飯を
食べさせてあげたい
きれいな水を
飲ませてあげたい

自分の
生活を見直し
節約することの
大切さを学んだ

沖縄戦の悲劇をオンラインで疑似体験

★「ひめゆり平和祈念資料館」@沖縄 オンラインガイドツアー (8月19日 第9地域委員会)

ひめゆり平和祈念資料館は、沖縄戦で看護要員として動員され犠牲となった女生徒や教師の慰霊碑「ひめゆりの塔」に併設されています。女学校で楽しそうに過ごす写真から始まり、軍国教育を受けて野戦病院に動員されていった記録を、学芸員の解説と映像でたどります。医学の知識を持たないのに負傷兵の排せつ介助や死体埋葬などをすることになった過酷な様子もイラストで解説がありました。

鎮魂の部屋では、沖縄戦で亡くなった227人の生徒と教師一人ひとりの写真が壁に掛けられ、生き残った人たちの証言に基づいた思い出が記され、実際に現地に行って歩きながら見ているようでした。



ひめゆり平和祈念資料館説明員 尾鍋拓美さんがオンラインでガイド

戦後79年、
若い世代に
伝えていきたい

離島の
軍備など、
沖縄について
もっと知りたい

詳しく
解説いただき、
さらに知りたいと
思った

戦争の加害と山の手空襲の被害の痕跡を巡って

★ピースウォーク ~戸山早稲田・身近にある東京大空襲の戦跡を巡る~ (11月4日 第2地域委員会)

陸軍の関係施設が多数存在したことから、米軍から20回以上の空襲を受けた新宿区戸山~早稲田の戦跡をガイドの解説を聞きながら2時間半歩きました。陸軍軍医学校があった国立感染症研究所からは、日本軍が人体実験を行った痕跡と思われる遺骨が多数見つかったことなど、戦争の加害について学びました。



戦争の
愚かさ虚しさを
改めて体感し、これからは
いただいた地図を片手に
歩いてみようと思っ
た



国立感染症研究所納骨施設にて献花

慰霊碑が
隠れた所であって、
オープンに
なっていないなんて
信じられない

山の手空襲の慰霊
のため建立され
た観音像(感通寺)
の前で感想を述べ
合う参加者

「平和を願い耳をすましてみよう」と題して、組合員など約200人が集いました。

第20回東都生協平和のつどい
日時 8月17日 場所 牛込筆筒区民ホール(新宿区)

詩人 アーサー・ピナードさん講演

~ちっちゃいこえが聞こえてくるまで~

昨年広島に
行ったのですが、
今日の話聞いて一層
戦争や原爆のことを
知ることができ
勉強になりました



紙芝居
「ちっちゃいこえ」の上演



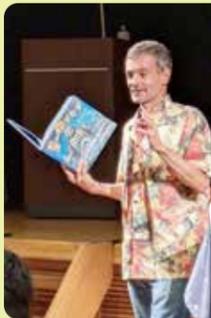
絵本の脚本家、翻訳家でもある詩人のアーサー・ピナードさんの紙芝居、絵本の朗読と作品の解説を交えた講演が行われました。

紙芝居の「ちっちゃいこえ」は、画家の丸木位里・丸木俊夫妻の「原爆の図」を基に作られた物語。語り手は広島に住んでいる黒猫のクロ。その黒猫を通して、戦争時の様子や原子爆弾が人や動物たちに、広島に何をしたのか語られています。

絵本「ドームがたり」は、原爆投下後に大きく姿が変わり「原爆ドーム」と呼ばれるようになった世界遺産「広島平和記念碑」が主人公の物語です。

アーサー・ピナードさんは最後に「多くのアメリカ人が日本人と同じ立場。『原爆の平和利用』に皆さんと一緒に終止符を打つことができたらいいと思っています。原子力の悪循環をなくすことは、これからの私たちの行動にかかっています」と結びました。

絵本「ドームがたり」
について語る
ピナードさん



話を聞いて
被爆者の方たちの
被害の大きさを知り、
その苦しみを思うと
胸がいっぱいに
なりました



アーサーさんは
笑いを入れながらも、
言いたいことが
しっかり伝わってきて、
コミュニケーションが
すごい

平和の願いの樹に寄せられたメッセージ



ハート形のメッセージカードに書かれた組合員の皆さんのメッセージ。思いは人それぞれですが、一人ひとりの思いが平和を支える力になることでしょう。

誰もが安心して暮らせる社会のために /

未来につなぐ募金

東都生協では、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す活動(団体)を応援、助成を行っています。組合員一人ひとりの思いを寄せ合い集めた募金を、東都生協の商品に換えて応援する仕組みです。毎号、助成団体を紹介しています。

200円から支援できます

募金方法は、注文書の特別企画注文欄「商品(申込)番号」に【365920】の6桁番号を記入し、「数量」欄に募金する口数を記入してください。1口200円です。

※インターネット注文「とうとねっと」、電話注文でも募金ができます。



この旗が目印です

団体名 フードバンクむさしの

設立	2021年4月	メンバー	久保田 由美子 その他20人ほど
代表者	西口 周三さん	ボランティアの受け入れ	あり
活動拠点	むさしのエコリゾートほか	広報ツール	Instagram、Facebook、
活動内容	フードドライブ 火曜日、土曜日のみ		マルシェイベントチラシ

助成団体紹介 Vol. 22

親子でも立ち寄ってくれます



代表の西口さん

昔のアメリカ映画に出てきたフードバンクが活動の動機に

土曜日の午後、大きなのぼりを目印にたくさんの方が行き交う吉祥寺駅南北自由通路はなこみちの一角に伺いました。机1台のスペースに武蔵野市内の高校、大学生のボランティア3人とメンバーのお2人で食品の受け入れをしていました。「キラリナ京王吉祥寺店のご協力のおかげでこのフードドライブはかなり知られていて、多くの方がSNSを検索して家庭から持参してくれます。特にギフトシーズ後はたくさんの方が立ち寄ってくださるのでありがたいです」と代表の西口さん。

社会福祉協議会の連続講座で出会った仲間中学校の先生がいたことをきっかけに、若い人たちにコミュニティが一気に広がり、市内の学生ボランティアが集まるようになりました。成蹊大学祭でのフードドライブには、毎年200kgもの食材が集まるそうです。

武蔵野市の各駅前広場でのマルシェに参加したり、小学校でフードドライブの授業をしたりと、活動が広がっています。また、家庭内暴力に遭った人から「どこに電話したらいいのか分からない」という電話が掛かってくることもあり、福祉の相談窓口につなげているそうです。セーフティネットの役割をボランティアで担われている活動メンバーの皆さんに感謝の気持ちが湧いてきました。



寄付の食品を計量します

団体名 フードバンク ジョイライフ

設立	2016年8月	メンバー	35人 ボランティア約15人
代表者	高橋 信行さん	ボランティアの受け入れ	あり
活動拠点	江戸川区	広報ツール	ホームページ https://fb-joylife.jimdofree.com/
活動内容	フードバンク、フードパントリー(一之江、葛西地区:第1・3土曜日 清新町地区:第2・4土曜日 緊急支援対応随時)、子ども食堂(めだかの楽校、JOY! 第4日曜日)		

助成団体紹介 Vol. 23

「食べものに、もったいないを、もういちど」をモットーにシニアが活躍

メンバーは、江戸川区の社会貢献を目指す人々を応援する江戸川総合人生大学の卒業生で、2016年に8人で立ち上げ、現在会員は35人。同大学では、区民が地域の課題解決に向けて互いに知恵を出し合い、社会貢献へとつなげるための学びのシステムがあります。代表の高橋さんは、「困った時にはお互いさまの気持ちで『お裾分け』が子育ての応援にもつながり、食品ロス対策と食のセーフティネットの両方になる」と、地域への恩返し的情熱をフードバンクに注いでいます。



受付で、利用者カードをチェック



ちまたのスーパーが米不足の時も、米はしっかり確保



世帯ごとにかごに仕分け

被爆者の相談記録から

～被爆者と歩いて42年 第20回 東都生協平和のつどい 皆さんに知ってほしいこと～

東友会※には東京で暮らす被爆者の約8千人分の相談内容が収められている「カルテ」があり、村田未知子さんはこれまで関わってきた相談者の過酷な人生をお話しされました。「核兵器は悪魔の兵器。『ふたたび被爆者をつくらせない』と活動する被爆者とともにある人生は私の誇り」と相談員としての42年の歩みを振り返ります。最後に村田さんは参加者にこう語り掛けました。「被爆者の友達を作ってほしい。被爆のこと、その後のこ

と、被爆者の人生全てを聞いてくださいませんか。それが原爆、核兵器が人間に何をしたかを知ること。そして知ったことを今度は皆さんが核戦争の被害を訴え、核兵器廃絶のために一緒に歩いてくださいませんか。被爆者の平均年齢は85歳を超え、被爆当時のことを自分の記憶で話すことができる最後の世代といわれています。村田さんのメッセージは、核兵器廃絶のために、私たちが今からでもできることがあると気付かせてくれました。

参加者のアンケートから

村田さんのメッセージは終わらない戦争を終わりに近づけ、同時に次の戦争を近づけない力になると思いました

村田さんが小学校で先生から聞いた「人間が人間にしたひどいことを決して忘れてはならない」このメッセージを、2人の娘や組合員活動で伝え、取り組んでいきたい



東友会事務局長 村田未知子さん

※一般社団法人 東友会 (東京都原爆被害者協議会) 東京在住の広島・長崎原爆被爆者の方が1958年11月16日に結成。60年以上励まし合いながら被爆者と家族のための運動や事業を続けている、東京レベルで唯一の団体です。東都生協組合員が毛糸で編んだ膝掛けを贈呈したり、被爆体験のお話を開催したりして交流しています。

膝掛け贈呈

ピースニット(膝掛け)を広げる東友会の皆さん



東友会中西俊雄さん挨拶

1988年より、東都生協組合員の皆さんからいただき始めた膝掛けが延べ12,000枚になります。暖かい膝掛けを届けた時の被爆者の笑顔は忘れられません。持って行って良かったと本当に感じ、玄関先で幸せな顔を見るとホッとします。今年も届けたいです。

これから参加できる平和活動

★ピースアクションin Tokyo&ピースパレード(4月12日)

核兵器の廃絶と戦争のない平和な世界を目指して、東友会と都内の各生協などの団体による集会の後、表参道をパレードで歩きます。

★ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ(8月4日～8月9日)

ヒロシマ・ナガサキでの被爆者の証言などを聞く学習会や式典に参加。組合員同士、また親子で「平和」について考えることができます。

★ピースニットカフェ(「地域版フォ」で月1回案内)

第5地域(杉並・中野区)、第6地域(世田谷区)の地域委員会が開催する月1回のサロンで東友会へ贈る膝掛けを作成しています。編み物が得意な組合員の活躍の場となっています。

★るんるんズ広場(月1回) 東都生協さんぼんずぎセンター(杉並区)

ヒロシマ・ナガサキに献納する千羽鶴を作成しています。

昨年、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会とその加盟団体である東友会に東都生協として祝意をお伝えしました。東都生協では核廃絶と平和の実現に向けた署名や交流活動に取り組んでいます。私たち一人ひとりの声は小さいかもしれませんが、平和への願いを声に出してつながること

で、大きなうねりを生み出すことができます。あなたもまずはご家族、お友達など身近な人と、平和について話してみませんか。

※日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞受賞に寄せて東都生協ホームページでは、お祝いのメッセージを掲載しています。



メッセージは上記の二次元コードからご覧ください